

# 美 陵 G . C 会報

藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-0027 藤井寺市岡 1-2-16 (藤井寺商工会館内・観光協会)

TEL 072-939-7047

FAX 072-952-3118

## 「修羅出土 30 周年記念フェスタ」開催

平成20年7月6日

午 前 の 部

「大修羅」映像上映の後 藤井寺市教育委員会文化財保護課 山田幸弘氏の司会で

- |        |          |              |
|--------|----------|--------------|
| 発掘担当   | 高島 徹 氏   | (大阪府教育委員会)   |
| 保存処理担当 | 増沢 文武 氏  | (元元興寺文化財研究所) |
| 運搬担当   | 阿知波 毅 氏  | (アチハ株式会社)    |
| 報道関係   | 坪井 恒彦 氏  | (読売新聞大阪本社)   |
| 地元代表   | 南坊城 充興 氏 | (道明寺天満宮)     |

5氏によって

座談会が開催されました。出土30年経ったにもかかわらず、昨日の出来事のように、当時の様子が語られ場内は壇上5氏の話に釘づけとなりました。会場内は山田氏の素晴らしい司会で和やかな中にも緊張感が漂い場内はあたたかさも今出土作業に加わっているかの様に熱気に満ち溢れました。修羅が再び市民の身近なものとなり、今後図書館の展示品や天満宮の復元品に注目が集まる事でしょう。座談会は良かったと男女とも回答がありました。

午 後 の 部

紙芝居「とべとベルカ〜いのまなりものがたり」が上映されました。1羽の蝶が色あざやかに大きくなったり、小さくなったり、ストーリーと共にメルヘン絵の世界に誘ってくれました。又、マンドリンアンサンブル楽団「かわちマンドニーノ」は昔懐かしい曲目を演奏され、歌を口ずさむ方もおられ「修羅慕情」では場内皆さん一つとなって大いに盛り上がりました。アンケートの結果

年 齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男 性	1		2	5	16	25	6	55
女 性	1			3	8	4		16
合 計	2	0	2	8	24	29	6	71

アンケート対象人数		回答者性別	
午前の部	120名	男性	55名
午後の部	140名	女性	16名
計	260名		71名

住 所	藤 井 寺 市	隣 接 市 町 村	大 阪 市 内	大 阪 府 内
男 性	45		7	1
女 性	14		1	0
合 計	59		8	1

修羅発掘当時の状況	男	女
現地説明会に参加	13	1
曳こう実験に参加	1	0
曳こう実験見学	14	2

## 記念フェスタをふりかえって

中西 明 (現会長)

7月6日の『修羅フェスタ』は、午前の座談会、午後の紙芝居とコンサート、ともに満員で翌日、國下市長からねぎらいの電話を頂くなど、好評を博しました。

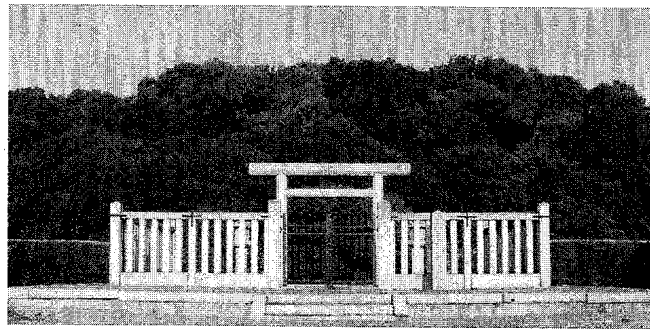
当会初の主催事業としては、大成功だったと思います。この結果が得られたのは、全会員の熱意とチームワークが実を結んだからに他なりません。更には出演して下さい下さった方々が、我々の立場と考えを良く理解して下さい、心からのご協力を頂いたことを忘れてはなりません。正直なところ、その前日まで来客数が読めず随分不安でした。

お招きした先生方が、全員出席をご快諾頂いたのも嬉しい誤算だったのです。しかしよく考えると、直接手掛けられ、ご苦労された方々にとっては、修羅に対する想いが我々の想像以上だったと言うことでしょう。座談会の中で、「この修羅は幸せもの」と表現されたことも良く現れていると思います。こうした関係者の方々の修羅に対する想いや情熱が聴く者に直接伝わり、感動を呼び起こしたのではないのでしょうか。余談ですが座談会終了後の席で、ある先生から現在は定説になっていることについて疑問が出され、ひと時熱のこもった議論が続きました。それはこうした資料が、発掘され保存処理されれば、それで片が付いたと言うものではなく、ずっと続くものだという事です。これが、歴史遺産を後世に伝える道であり、沢山の史跡に囲まれて暮らす我々も是非身の回りにもっと関心を持ち、大切に伝える気持ちを持たないでいたいものです。

## 前方後円墳と世界遺産のあれこれ 竹村 英子

前方後円墳を予期せぬ時にいきなり見た人は、その大きさ・形・雰囲気は驚く事が多いそうだ。一方、その近くの住人にとっては、天皇陵として慣れた風景で、木々などの豊かな自然に心安らぐ面もあり、ありのままに受け入れられていると思う。創建された当時は最先端の建造物で、遠くよりよく見え、三段の山状に土盛りをされた状態、数多く並べられた朝顔形埴輪・人物形埴輪など当時の人々を圧倒させたであろう。日本の各地に復元された古墳を、現在の私達が見てもその存在に感銘をうける。同じように墳墓として有名な世界遺産エジプトのピラミッドは古代遺産として教科書やマスコミ関係・博物館の展示などで公開され見聞きする事が多く、一般に認識されている。個人的感想として実際にエジプトのピラミッドの前に立った時、構成している一つ一つの石の大きさ、見上げた時の角度、独特な色、内部構造など4・5千年の年月を思うと、その偉大さに圧倒された。

秦の始皇帝の墳墓もバスより遠目に眺めたが、木々に覆われ日本の御陵に似た雰囲気とその周辺の兵馬俑群などと合わせ、歴史の重みを感じさせられた。堺市立博物館に世界の三大墳墓の比較が展示されていて興味深い。それによると、全長では仁徳陵が最も長く、型の上でも日本の御陵が独特である。30年ほど前に訪れたメキシコシティのテオティワカンもエジプトのピラミッド同様、石の四角錐型であったが、こちらは神殿で、広い大地に太陽と月の神殿があり、頂上から見渡せたその広大さに感動した。世界には、人類が各々の土地の資材で、各々の思いを表現した巨大な建造物がいろいろある。1972年ユネスコで世界遺産条約が採択されて以来、多くの世界遺産が登録され大切に保存されてきた。日本の前方後円墳は、大きさ、独特の型、古代の遺物としてではなく現在まで墳墓として受け継がれている事実などを考慮しても、世界遺産に指定されてよいと思われる。



## 仲津山陵(仲姫陵古墳) 写真提供 保田 紀元 百舌鳥・古市「巨大古墳群」世界遺産登録に向けて (2)

□ 朝、寝室の両戸を開けると、緑に潤う古墳が目に入る。中学生の頃、船を堀を渡り、蓮の実を探り、松の木の上で二上山を描き……私にとって古墳は楽しい遊び場であった。巴旦杏が赤く実り、空堀が広がる堤を汗を拭きながら歩くと、仲津山にはどんな人が眠るだろうと思いを馳せた。純な想い出が私を包み、世界遺産とするよりも愛して欲しいと、バルコニーで毎朝祈る。

世界遺産登録推進チーム(藤井寺市観光ボランティアの会内) 寺田 悠 司